

生産技術研究所の一層の発展を期待する

生産技術研究奨励会理事長 鈴木 弘



生産技術研究奨励会は、生産技術研究所の創立後間もない昭和28年に設立された。工学の深部の基礎研究から工業の最先端技術を開発することを設置目的の一半として掲げた同研究所の活動を円滑にするために、産業界との協力増進組織としての期待を抱いだき発足した。

初期においては、会計年度の制約を受けない予算の使用と、短期あるいは臨時的な研究協力要員の確保の両面で、生産技術研究所の研究活動に有効に協力し、また産業界が同研究所によせる研究委託の期待にも弾力的に応えた。

その後、大学における研究活動をとりまく社会の変化に応じて、当奨励会の生産技術研究所への協力の内容にも変化が現れ、最近の10年間は国際交流活動への協力が最大課題であった。

大きな動きとしては、まず国際交流集会への資金の助成あるいは、貸与であり、国際会議の生産技術研究所における6回にも及ぶ開催の実現に寄与している。2~3年前から準備活動を開始し、その費用の支出の始まる国際会議については、当会からの前倒しの資金協力の意義は大きく、国立大学の研究所が独立でこれ程の国際会議を実現している例はない。

来日した外国人学者の講演会も非常に高い頻度で開催されている。昭和53年以来62年度までの10年間で累計141回、ほとんど毎月1回実施されている。研究所内の研究者ばかりではなく、当会賛助会員の研究者にも開放されている。外国人学者の最新の研究に接することの意義は大きく、当会としては、謝金などの援助でこの講演会の実現に役立てることは、喜ばしいことである。

また長期間外国に滞在して研究活動に従事することは、受け入れ・派遣のいずれも、研究のみでなく文化の交流、相互理解の点でも大きな効果が期待されるので、当会としても大いに注力している。受け入れについては、外国人研究者を最短1ヶ月最長1ヶ年生研が招聘しているが、当会としては、旅費・滞在費等を、昭和60年以来累計15人に給付している。また生研勤務の若手助教授・講師などの海外留学については、当会の三好研究助成金によって、毎年5人の渡航を援助している。

以上のように、最近の10年間においては国際交流活動への協力が著しく伸びている。それ以前の当会の諸活動をも併せ、今後は一層活発に協力援助を展開したいと考えている。

最近の政府の動きとして注目すべきものに、通産省の技能者教育参入と文部省の生涯教育があるが、いずれも、学校卒業後に新しく進歩した学術・技術の、再教育による吸収の必要性の増大に対応するものである。

高級技術者の再教育は両省の政策外にとり残されているが、生産技術研究所においては、最近10年間に講習会10回、セミナー98回、基礎講座2回を開催して、学術・技術の最新の進歩を社会人技術者に組織的に教育する努力を注いでいるのは、誠に適切な活動であろう。

現在の講習会以上に強力にかつ体系的に再教育することを目的として、新しい教育コースを生研が実施される場合には、当奨励会としては、全面的に応援する決意である。日本が技術導入時代を抜けて、独創的技術の開発時代に突入した今、工学と工業との接点にあって指導力を發揮することを期待される生研こそ、高級技術者の再教育についても率先して行動して欲しいと願うからである。

(東大名誉教授 鈴木研究室)